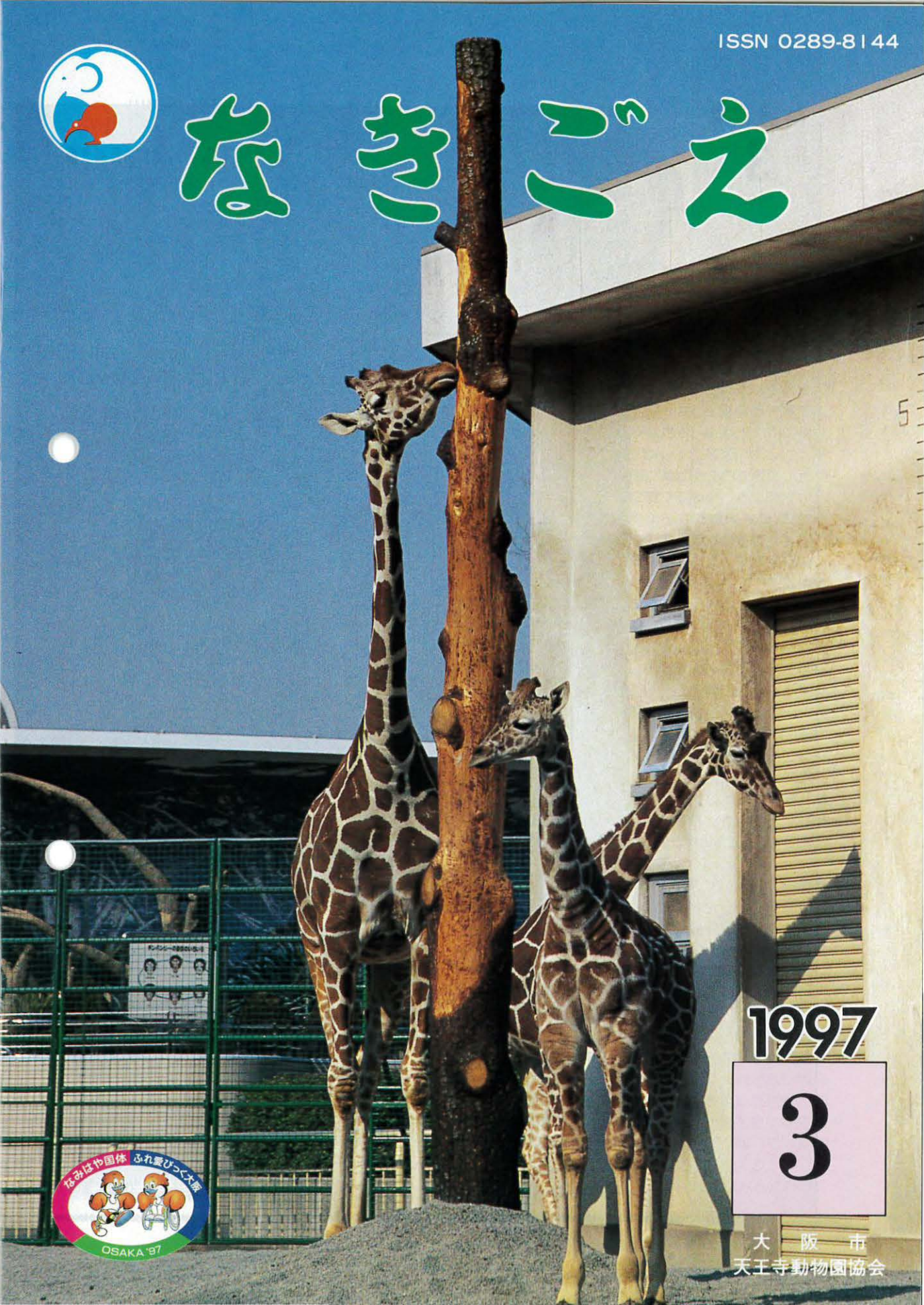
ISSN 0289-8144

なきごえ



1997
3

大阪市
天王寺動物園協会

なきごえ
3
1997

（撮影：落合 正彦）

2 —— New Face 雄のギンギツネがやって来ました（落合正彦）
3 —— 動物と私 身近なヒバリで思った事（田中豊成）
カバーウォッチング アミメキリン（落合正彦）
4 —— デュークの森で考えたこと
－日米格差の一つの理由－（本田公夫）
6 —— これからの動物園の展示と仕事（早川 篤）
8 —— グラフZOO カメのかたち（西村慶太）
10 —— 公園・花だより（山元貞幸）
11 —— ZOO DIARY（竹田正人）

カバーウォッチング

アミメキリン
ウシ目 キリン科
Giraffa camelopardalis reticulata

キリンはほとんどの動物園で見ることができる人気もの。子供のキリンも首が長いですね。首だけでなく足も長くてスラリとしたもの静かな動物です。

（撮影：落合 正彦）

動物と私

『身近なヒバリで思った事』

田中豊成 さん
（アトリエタナカ経営）

取りたてて特別なきっかけはなかったのですが、小学校の高学年頃からなぜか鳥に興味を持ち始め、以来35年ほど経ちます。途中、30代に独立して商売（看板業）を始めてから10年間くらいは鳥の観察を中断していたのですが、3年前に「名張みどりと生き物の会」という自然観察会が発足しこれに入会してからは昔の趣味を思い出し、休日には遠い近いにかかわらず、あちらの山、こちらの川、海などあらゆる所へ出かけてバードウオッチングを再開し、今ではすっかり鳥にのめり込んでいます。

入会以前は身近な鳥達を見てただ楽しむだけでしたが、鳥にすっかりのめり込んでからはこの身近な鳥達もいろんな信号を人間に送っていることに気付きました。それは身勝手な人間に住みかを追われ、生命の危険にさらされている生き物や、自然の苛酷さを体験している生き物の姿でした。その1例として私が見たヒバリ一家のお話しをしてみましょう。

ヒバリは私が子供の頃は麦畑などに巣を作り、5月から6月頃にヒナが巣立つサイクルを持っていました。近年は名張地方でも例に漏れず農業の形態が変わり麦畑はどこにもありません。私の家はもともと農家で、毎年5月初旬には田植えが始まります。ある年の4月の中旬、田植えの準備のためトラクターで田を耕していたときのことです。ヒバリが「ヂイッヂイッ」と警戒音をたてて10mくらいの高さで羽ばたき、近くの土手に舞い降りては私の行動を「ジッ」と見ていました。それで私は耕している田に巣があるのを直感し作業を中断、辺りを丹念に捜してみましたらありました。窪地に細い枯葉で作られた粗末な巣があり、うす茶色の細かな斑点のある卵が3個ありました。仕方なくそのまま仕事を中止してヒナが巣立つまで待つことにしました。ヒナが巣立つのを確認するためほぼ毎日観察を続けましたところ、1週間後には3個の卵は3羽のヒナになっていました。ヒナ達は巣の中で互いに身を重ねていました。嘴の根元付近は黄色く、羽毛は濃い灰色で毛先は白く、少し離れて見るとヒナは土色に溶け込んで見分けがつかないほどでした。ヒバリのヒナの成長ははやいのでしょうか、このヒナ達は5月1日には巣立ちをし、5月3日には田の畦で2羽の幼鳥が30～40m飛ぶのを見ました。その小さな飛翔に私はその生命が壊れないで良かったという満足感と、この先いろいろな試練が待っていて、それを乗り越えて次の世代へ命をつないでほしいと願わずにはいられませんでした。

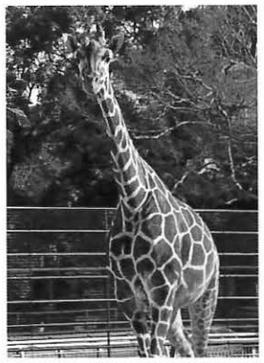
これは偶然にもヒバリが送った信号に私が気づき、巣を見つけることができて良かったケースですが、大抵の場合は見過ごされて、トラクターなどで巣ごと掘り返され、生き物の種の継続を邪魔したであろうと思われます。極論かもしれませんが色々と考えをすすめていくと、現代の人間は気付かないうちに驕り高ぶり、自分の子孫の継続をも自らの手で破壊しているのかなとも思います。日本中の人達、いや世界中の人達が生き物のことをほんの少しでも考えてくれたなら世の中はもっとゆとりのある生き生きとした世界が開かれるのではないでしょうか。人間を含めた生き物達が節度ある共存共栄の道を切り開いていく術はないものかと思うのは私だけでしょうか。

（たなか とよしげ）

雄のギンギツネがやって来ました

ネコ目
イヌ科

今年の1月末にギンギツネの雄が入園しました。これまでは雌だけでしたが、やっと雌雄のペアとなりました。2月下旬からペアで展示しています。



デュークの森で考えたこと
ー日米格差の一つの理由ー

本田公夫 シンシナチ動物園展示課長

昨'96年4月27日に、私と家内は当時5歳の娘を連れてノースカロライナ州ダーラムにあるデューク大学霊長類センター（Duke University Primate Center-DUPC）の30周年記念の行事に参加しました。「霊長類」センターと言っても、研究の主眼は原猿類、特にマダガスカルのキツネザルの仲間で、飼育されている霊長類約800頭の中に真猿類はひとつもいません。中心部の建物とケージ群を取り囲むデューク大の実験林の一部は、数ヘクタール毎に囲われていて放し飼いのヴェローシファカやエリマキキツネザルなどが飛び交い、私たちにとっては実に天国のような場所です。研究施設ではありますが、観覧を希望する一般の人は、事前に電話で予約をしておくとボランティアが案内をしてくれるシステムになっています。

当日の行事は一般向けのもので、昼の部はセンターのここかしこでお話しや、ガイド・ツアーが催され、夜は場所を大学の立派なホールに移し、ジェイン・グードール（Jane Goodall）の講演とビュッフェスタイルの夕食が用意されました。センターでは子供向けのゲームや工作のコーナーが、夜は夜で託児所が準備されているおかげで、こちらは娘をおっぽり出し、こういう時でないと会うチャンスが無い色々な人と話をすることができました。

初対面の時のエルウィン・サイモンズ博士。
人工保育されたコクウェレル・シファカのナイジェルと。

エジプトピテクスなど化石霊長類の研究で有名なエルウィン・サイモンズ（Elwyn Simons）博士は、もう10年近い顔なじみです。初めて

その時エルウィンが手ずからとって見せてくれたアイアイのベビー。

会った時は汚いTシャツ一枚にハンチングをかぶった姿で現れ、これが所長かと思いましたが、大変温かく面白い人で、現在は事務・管理責任を手放し、サイエンティフィック・ディレクターという肩書をもらって研究に専念しているようです。来客の中には、ニューヨークのアメリカ自然史博物

この写真を撮影した翌年1989年に、イアン・タッターソール博士の名前を種小名にもらって新種として記載されたGolden-Crowned Sifaka *Propithecus tattersalli*。

館（American Museum of Natural History）人類学部門の長で、エルウィンの弟子に当たるイアン・タッターソール（Ian Tattersall）博士や、キツネザルの行動研究の基礎を築いたアリソン・ジョリー（Alison Jolly）博士（いつ会っても気のいいおばさんという風情）、DUPCにいたころゴールデンバンブーキツネザル（Golden Bamboo Lemur *Hapalemur aureus*）の共同発見者となったパト

マダガスカルの古生物の話をするエルウィンとイアン。漫才のように面白い。

リシア・ライト（Patricia Wright）博士（真っ赤なスーツ！）など、予想通りの顔ぶれが見えるかと思えば、駐米マダガスカル大使の話を聞く人の中には、なんと東アフリカのオナガザル類の研究で有名なトム・ストゥルーセイカー（Tom Struhsaker）がサンダルばきですわっていました。

さて、この祝賀行事、日本とは随分様子が違うところが二つばかりあります。まず第一に、日本の研究施設で記念行事が一般向けに企画されることがあるでしょうか。デュークの場合、女優や地元の有名スポーツ選手までかりだされ、ダラダラした挨拶もなく、堅苦しい雰囲気はまるでありません。もう一つは資金集めを見込んだ高い参加費用で、夜の部だけで一人100ドル、昼夜セットで125ドル、家族ぐるみの昼夜パック（夜は大人二人だけ）は250ドルもします。（当方は、30周年記念のTシャツを無料でデザインしたので、参加費用免除でした。）文化・習慣の違いと一言で片付けてしまえばそれまでですが、具体的に何が違うのでしょう。私はこの数年、税制こそこうした違いの最大の原因の一つと考えるようになり、動物園や博物館、ひいてはNGOの在り方の日米の違いに大いに関係あり、とにらんでいます。

アメリカは地方分権国家で、連邦政府がどこまで州政府に行政策を強いていいかと言うようなことが毎日の政治の議題になっています。国（連邦政府）で扱うことは少なくし、州、自治体、または市民、NGOに任せられることは任せようという考え方が、日本に比べて大変強いようです。これは、アメリカという若い国が、広大な国土を合衆国連邦という一つの国としてまとめていく歴史的経緯からの必然だったのでしょう。映画で歴史を語っては笑われるかもしれませんが、西部劇には、学校の先生を雇うだの、教会を建てるだの、保安官を任命するだのと、日常生活の大半が住民の自治でまかなわれていた様子がしばしば描かれています。肝心の税制ですが、連邦政府で十分面倒を見れない分、公共的な活動のために使われた私費は連邦税控除の対象になります。国民の方は、「自分で面倒見なければ他人はやってくれない」という考え方と、「どうせ税金で持って行かれるなら自分の賛同する趣旨の活動に寄付したほうがマシ」、という動機で寄付をしやすい環境ができているといえます。従って、非営利事業体は、自治体などの補助のほかに、財団や企業、個人の寄付に運営資金のかなりの部分を頼っています。この資金集め（fund raising）は年々その重要さを増しており、婉曲的（えんきょくてき）にディベロップメント（Development）と呼ばれる独立した部門が通例この仕事に当たっています。このような事情から、アメリカの動物園や博物館などは、一般大衆、特にメンバーなどの「とりまき」を大切にして、強い支持を維持しなければいけない条件が揃っていると言えます。上記の祝賀会が、関係者のパーティーに終わらずイベントになった理由もこの辺にあるのでしょう。また、自治体などから独立して運営されるため、政治的な枠組みに必要以上に縛られずに活動できるという利点もあります。DUPCは、マダガスカルに人を送って、保護区や動物園の設立運営の手助けをしています。

一方、中央集権的な日本の考え方はこの対極にあります。つまり、一般公衆に公益事業を任せると、最も望ましい形にはならないから、なるべく税金を吸い上げて、政府なり自治体なりで正しく運営しましょう、ということです（阪神大震災の見舞金にも課税することが検討されているという話を聞いた時は本当に驚きました）。でも、景気が悪くなれば税収も減りますし、政府や自治体に任せれば放っておいても大丈夫という訳ではないことは、最近の日本の官僚の不祥事で一目瞭然でしょう。地元住民と園館の間に官僚システムが介在する以上、管理責任を持つ自治体の見識と守備範囲を越える施設やサービスは一向に出て来得ません。NGOを育てると言っても、活動の元になる資金調達が税制で阻まれていては笑止千万などとつい思ってしまいます。無論、広く税制一般としてどちらが良いとは一概にいえませんが、例えば私たちの関心事である自然保護や生物学的研究、ナチュラル・ヒストリーなど、既成の枠組みの中に文化として存在しない事業の育成には、今の日本の税制は足かせになっていると言って差し支えないと思います。

海外出張すらままならない日本の動物園では、例えば生息地を直接見ないで展示を設計しなければいけないのが現状で、日本の動物園の将来を考えると、どうも悲観的になってしまいます。が、天王寺の爬虫類館は、かなりの予備調査を経て大変良い施設を作られたと聞きました。ひょっとすると大阪では新しい手順ができつつあるのかもしれません。是非とも先鞭をつけていただきたいと蔭ながら期待しています。大切なことは、外国とは社会的基盤が異なる事情をまず理解し、その上で、海外での展開をどのようにしたら日本の枠組みに合うようアレンジできるかを考え、枠組みの変更が必要な点は関係当局に訴えかけていくことでしょう。特に後者については、枠組みの外にいる動物園ファンが運動を起こすことが肝要だと思います。本誌の読者の皆さんも、「動物園のための声」になる方法を考えてみませんか。

（撮影はすべてデューク大学霊長類センターで行った）

（ほんだ きみお）

これからの動物園の展示と仕事

2月のとある日、大阪の能勢の山中でネズミ獲り（車のじゃなく本物です）をした時のことです。全く収穫がなかったのですが、ロッジ内でネズミのフンを発見した人がいました。すぐにロッジ内にトラップを置いてみると、長年、手に入れたかったヒメネズミが入っているではありませんか。喜んでケースに移す僕の後ろから「それ、連れて帰るの。」と言う低い声が…。お願いだから、それは言わないでおくれ。野生動物を捕獲して飼育するという、ひと昔前の動物界なら、また一般の人でもどうも思わなかった事ですが、動物の福祉、アニマルライツの考えが普及した今の時代では、僕もすごく心苦しいのです。しかし何も趣味で飼いたいわけではありません。その辺の事情は、1996年1月号の「僕がネズミにこだわる理由」を読んで下さい。

アカネズミ

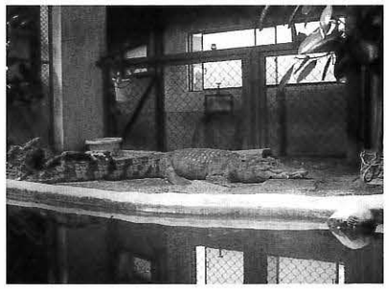
一頭の野生個体を連れて帰る心苦しさはあるものの、この一頭の野ネズミを展示することで、野ネズミに対する認識や大阪府下の環境保全へとつなげることができるとするならば、より多くの野ネズミたちへと還元できるのです。そういう効果が動物園における展示の可能性であり、僕の仕事なのですから。

さて、本題はネズミではなく、展示ということについてです。服装や歌だけではなく、展示にも流行はあります。しかし、流行に流されることなく展示というものを正確に把握していなければ、飼育係はただのエサやり係となってしまいます。今回は、展示というものを僕なりに整理してみたいと思います。

動物園の役割とは何なのでしょうか。博物館法の第2条を引用してみましょう。

博物館法とは、歴史・芸術・民俗・産業・自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関である、と定義されています。また㈳日本動物園水族館協会は動物園の目的として『種の保存の場』と『環境学習の場』という2点をあげています。

動物園には、このような立派な役割とか目的とかがあるのです。逆に言えば、このようなことができていなければ動物園じゃないと言われても仕方がありません。昔のように動物を並べているだけの所は動物園ではないということです。教育的配慮のもとに展示を利用してもらうため、



旧は虫類舎のワニ展示場

岸辺の草むらの中でワニがあたりをうかがう

展示そのものもどんどん変ってきました。最近では北米の動物園を中心として、展示場をその動物の生息環境を再現しつつ、動物の住環境や行動に合わせたものを取り込み動物の福祉ということに重点をおいた、いわゆる生態展示が主流です。最近は素晴らしい展示も多く見ることができるようになりました。さて僕の印象では、今の動物園は生態展示を造ることだけに流されているように感じます。動物園における展示とは、動物やそれに関する資料を通して動物と動物をとり巻く環境について学んでもらうためのものです。けっして、動物が住む環境を再現して、素晴らしい展示場を造り、その中に動物を入れて見せるだけのものではないはずです。そういう意味でも生態展示は、あくまで展示手法に過ぎません。動物舎だけではけっして展示の目的は達せられません。展示場だけに頼っていてはならず、展示の限界というものを飼育係は把握しておかねばなりません。

干潟を再現

生態展示は確かに見る人に今までにない感動を与えることができる可能性を持っているものだと思います。そのためにも、各園の事情にあった使い方をしなければならないと思います。多くの植栽や自然物を使った展示は見る人に安らぎや学習のきっかけを与えることになるでしょう。では生態展示は、展示者にとって最高の手法なのでしょうか。その手法を間違えれば悪い結果をもたらすことも知らねばなりません。例えば草食動物の展示をする場合に広大な草地を再現するというケースが考えられるでしょう。広々としたサバンナでのんびりする動物達を見るという良い展示になるかもしれません。しかし、悪い面も考えておかなければなりません。広いという事はそれをずっと見てまわらなければならず、動きの少ない草食動物は単調な展示となってしまいます。また動物との距離も離れてしまいます。敷地面積の大きな動物園ならばいいでしょうが、都市型動物園では展示手法に多少の妥協が要求されるでしょう。今までの飼育経験から狭い面積での繁殖が可能な種については、展示場の面積よりも質を向上させるための展示手法を考えていくことも大切ではないでしょうか。

いずれにしても、生態展示とは生息域を再現することが目的ではないと肝に銘じておかなければなりません。動物を飼育するうえで、限られた面積内で住環境を最大限に良くするための手法でなければなりません。内部に配置される木や岩は飾りではありません。それらは動物に利用されるためのものであり、ひとつひとつの展示物に意味をもたせることが大切です。

確かに、今は生態展示が主流になっていますが、今までの展示にも良い部分もたくさんあります。生態展示にも弱点はあります。流れに流されず、展示の目的を果たすため、どの方法が最も良いのかを判断していかなければ、悪い結果を産むことになりかねません。飼育係は与えられた展示を通して飼育動物がもつあらゆる情報を利用者に伝える義務があります。何を伝えるべきか、そのためにはどのような展示をすべきか、どんな解説パネルを書けばよいのか、常に利用者の様子を見ながら施行していかなければなりません。利用者のニーズを知り、あくまでも教育的配慮を忘れることなく展示をつくりあげていくことなくして展示は成立しません。いくら多額の予算をかけて立派な建物を造ったところで、それを動かす飼育係の工夫がなければ展示は完成されません。「人は城、人は石垣」という言葉がありますが、すばらしい展示はやはり人が最後のカギを握ることになると思います。

日本の森を見事に再現して、そこにヒメネズミを放したところで観客に対して何を伝えることができるでしょうか。立派な展示とかきれいな展示などのうえにさらに動物園が伝えるべき重要な事があります。ヒメネズミという動く実物を展示して、野ネズミという動物たちが生きていること、彼等が今も大阪近郊で生活を続けているということ、その生活環境が破壊されつつあるということ、そして、それが結果として他の動物や植物に大きく影響していくということ等を伝える展示でなければならないと思います。能勢の山中で暮らしている一頭のネズミを連れて帰るということは、僕にこんなに大きな課題をも持たせることなのです。

地球規模の環境破壊というと遠い国の映画の中の出来事みたいに聞こえますが、これからの動物園の展示と仕事は、それら映画の中の出来事を現実のものとして皆さんに感じてもらえるようにしなければならないと思います。能勢のネズミとアフリカのゴリラを動物園の展示という糸でつないでいけたら、野ネズミを連れて帰る心苦しさも少しは軽くなるでしょうか。

（飼育課：早川　篤）

カメのかたち

カメと言われたらどんなカメを思い浮かべますか？　世界には住む場所にあわせて色々な形のカメがいます。ここでは、は虫類生態館”アイファー”で見られる世界のカメを紹介します。

（飼育課：西村慶太）

水辺・水中

日本固有種の**イシガメ**は、私達にもなじみ深いカメ。でも最近は水質汚染などで数を減らしつつあるカメです。

"アイファー"では**フロリダアカハラガメ**(アメリカ合衆国南部に生息)は、同じ地域に生息するミシシッピーワニ・トゲスッポンと同居展示しています。

甲らや全身をなめらかな皮膚でおおわれた**トゲスッポン**(アメリカ合衆国の東半分に生息)は、大きな水かきを持ち体つきも平たく、水中をより上手に泳ぐのに適した体つきをしています。

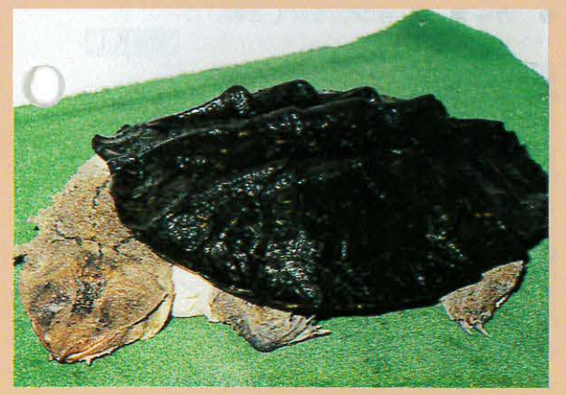
湿　地

水辺に近い湿った陸地に棲む**アメリカハコガメ**(アメリカ東南部やメキシコに生息)は、危険がせまるとおなかの甲らを持ち上げフタのように閉じて身を守ります。

乾燥地

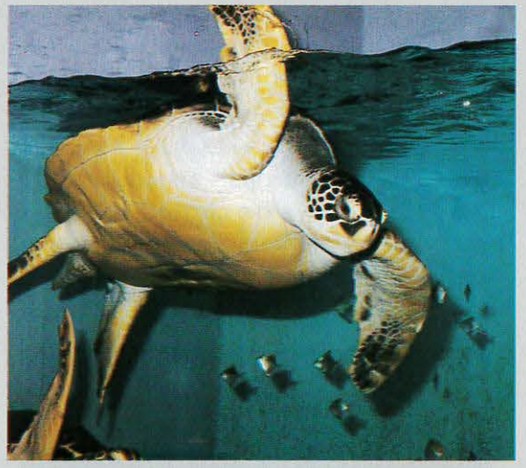
水から遠くはなれた砂漠や乾いた草原に住む**ヒョウモンガメ**(アフリカ中南部に生息)は、柱のような脚を持ち、餌となる草を求めて草原を歩き回ります。

水底



水底にたまった枯れ葉や泥の中でじっとしている**マタマタ**(南アメリカ北部に生息)は、餌となる魚を待ちぶせ、気付かず近づいてきた魚を目にも止まらぬ速さで吸い込み捕えます。

海



アオウミガメ(世界の熱帯～温帯の海に生息)は、ヒレのような手足を持ち一生の大半を海中ですごします。メスは産卵のために陸に上がりますが、陸を歩くのは大の苦手です。

公園花だより⑱
春の花

この時期になりますと、いろんな植物が芽を出し、早いものは、さむい冬から花を咲かせます。人や動物も行動しやすくなります。

以前にも紹介しましたが、今、沈床花壇に咲いている、パンジーから紹介いたします。

● **パンジー.** 3色すみれ. 遊蝶花. 耐寒性一年草. すみれ科.

花色、紫. 黄. 白で3色すみれ、今は改良されて、青. 赤. オレンジ. いろんな色が出ています。子供のころは、パンジーの方がおぼえやすいし、呼びやすいと思いますが、今の私は3色すみれの方が親しみがあります。

パンジーは、早いところでは11月ごろから出まわっていますから、花壇. 鉢植え. ハンギング. バスケット植え. プランターに植えて、いろんな形に並べて、プランター花壇を楽しんで下さい。

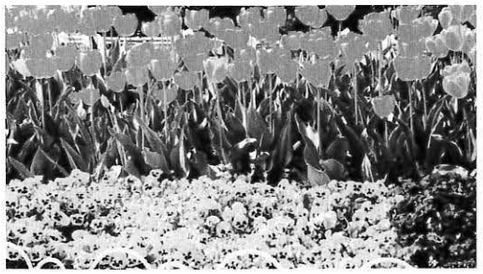
パンジーの花ことば. 私を思え！

沈床花壇のパンジーは、12月～5月の中頃まで。

● **チューリップ.** 耐寒性球根類. ゆり科.

花色は歌にもありますように、赤. 白. 黄が主です。

チューリップには咲きかたもいろいろで、一重咲き. 八重咲き. ゆり咲き種があり、エェーこの花、チューリップかなーと思うような咲きかたをする花もあります。チューリップは、花壇はもとより、鉢植え、プランター植えがありますが、露地植えして、そのままで、2～3年は楽しめます。花は少し小さくなりますので肥料をあげて下さい。チューリップの球根は、栗に似た形をしています。側面がへっこんだ方と、まるこく出た方がありますので、同じ方向に同じ形のまま並べて、花壇、プランターに植え付けて下さい。葉っぱが、2～3枚出てきたら、よーく見て下さい。葉っぱが同じ方向に並ぶと思います。私の経験です。



チューリップの花ことば. 魅惑、みわく。

● **モモ. ハナモモ.** ばら科.

花色は、白. 赤. ピンクとあります。

花の咲きかた、一重咲き、八重咲き、白と赤、白とピンクとが混じる咲き分けもあります。

モモは春の代表的な花の一つと言えると思います。モモは庭木、鉢植えとして親しまれています。また、果樹として栽培されています。

モモの花ことば. あなたのような魅力。

● **ジンチョウゲ.** ジンチョウゲ科.

春本番が間近になりますと、どこからともなく甘い香りがただよってきます。

「アッ、どこかに、ジンチョウゲの花が咲いているなー」と、わかるほど香りの強い花です。

4月の下旬か、または7月～8月に、さし木して、ふやし、庭木、鉢植えにして楽しんで下さい。

ジンチョウゲの花ことば. 甘い生活。

● **さくらそう. 桜草.**

花ことば. 希望。

● **スミレ.** すみれ科.

パンジーと同じなかまです。

花ことば. 謙譲、けんじょう。

● **タンポポ. せいようたんぽぽ.** きく科.

花ことば. 愛の神託、あいのしんたく。

● **カーネーション.** なでしこ科.

花ことば. 清らかな愛。

● **イチゴ. 苺.** ばら科.

花ことば. 幸福な家庭。

● **アネモネ.**

花ことば. はかない恋。

● 春の花. すいーとぴー. まーがれっと. きんせんか. のぼりふじ. デージー. ひなぎく. はまかんざし. しばざくら. さくら. もくれん. つばき. れんぎょう. えにしだ. つつじ. ふじ. まだまだ春に咲く花は、たくさんあります。

道ばたで、力強く咲いている花もありますので探してみて下さい。

今回は子供さんが身近で見ることのできる、春の花を書いてみました。

（温室主任：山元貞幸）

1月2日 新年は本日より開園し、お年玉として天王寺動物園の特製カレンダーを配りました。また、所長が干支にちなんで牛のお話をしました。

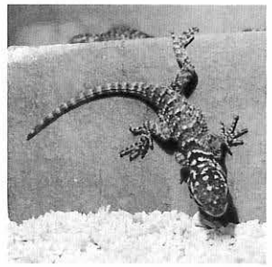
1月3日 お正月恒例の職員による餅つき大会を行い、できたてのお餅を入園者に配りました。

メジロを1羽保護しました。

1／4. キーウイが産卵しました。

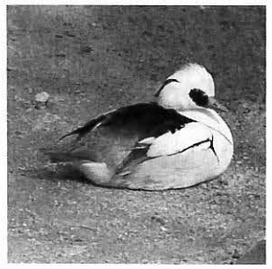
1／5. ゴイサギを1羽保護しました。

1／6. ホシハジロを1羽保護しました。



1月8日 爬虫類生態館“アイファー”でアオハリトカゲが繁殖しました。このトカゲは卵胎生といって、お腹の中で卵がかえってから生まれてくる他であまり展示されていないトカゲです。

ユリカモメを1羽保護しました。



1月9日 コガモとキンクロハジロ、ミコアイサが入園しました。検疫が終わりしだい、鳥の楽園“バードケージ”で展示する予定です。

夜行性動物舎のハリモグラの体重測定を行いました。13kgでした。

1／12. カンムリカイツブリとゴイサギ、キジバト各1羽を保護しました。

1／13. 当園で生まれたアカカンガルーのオスを福岡県の海の中道海浜公園動物の森に贈りました。

ヒツジとヤギの蹄が伸びたので、削蹄しました。

今月もおもしろ情報満載
ZOO DIARY

1／15. 福岡県の海の中道海浜公園動物の森からアカカンガルーのメスが贈られて来ました。検疫終了後、展示中の群れと同居する予定です。

1／17. 爬虫類生態館“アイファー”で展示していたトウブハコガメが中耳炎を起こしたので治療を始めました。

1／18. ユリカモメを1羽保護しました。

トカラヤギの蹄が伸びたので、削蹄しました。

1月19日 さる15日に入園したアカカンガルーのメスの検疫と見合いが終わったので展示中の群れとの同居を始めました。

1／22. コサギを1羽保護しました。

1／23. コアラのメス3頭の血液検査を行いました。

1／24. 鳥の楽園“バードケージ”で人工ふ化を試みていたハワイガンがふ化しました。

1／26. キジ舎で展示中のヤブツカツクリのオスが元気がなくなったので治療を始めました。

ホンドギツネのメスを導入しました。検疫終了後、小獣舎でオスと同居展示させる予定です。

1／27. コサギを1羽保護しました。

1／29. ホシハジロを1羽保護しました。

1／31. ゴイサギを1羽保護しました。

ギンギツネのオスを導入しました。検疫終了後、小獣舎でメスと同居展示させる予定です。

今月26日に入園したホンドギツネにワクチンを接種しました。

愛ある暮し、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

新・きれい色

FUJICOLOR

SUPER G ACE 400

カメラの大林

桜橋本店 ☎341—8091

阪急三番街店 ☎372—5031

DEAR LIFE BOOKS

生態・飼育・図鑑が一つの本の中にギッシリ

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？　動物園での世話の仕方は？　仲間は？　など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしとかいかたシリーズ＜既刊本＞

B5変型判・オールカラー

むし くらしとかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち250種を紹介。

ちいさないきもの くらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。　ひかりのくに株式会社　本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

ニホンオオカミの生態と歴史の集大成

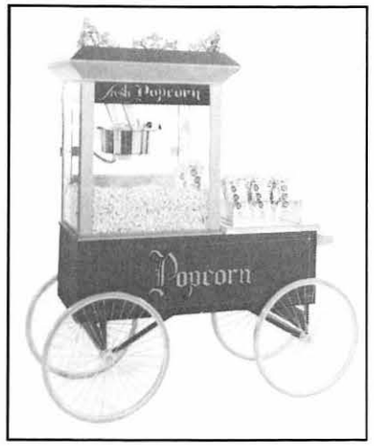
狼——その生態と歴史——

平岩米吉［著］　A５判　308頁　定価2,678円（税込）

ニホンオオカミは今もどこかで生きのびているのか——。
狼と生活をともにした実体験を基盤に、
数十年にわたり収集した正確な資料と生態学の眼をもって、
ニホンオオカミの特徴や大きさ、性質などを分析。
今も根強く残っている残存説を検証するとともに、
絶滅へといたる歴史をも詳述する「ニホンオオカミの正史」。

㈱築地書館　〒104　東京都中央区築地2-10-12　TEL 03-3542-3731　FAX 03-3541-5799　振替 00110-5-19057

◉ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。（直接郵送時の発送料は一律400円です。）



マスダのポップコーン

マスダ　いつでもどこでもポンポンポン

〈営業品目〉　製造機械・保温機　他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

㈱増田食品　〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30　TEL (06)865－0165

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」

19分（10本常備）

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

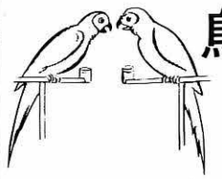
- 対　　象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸 出 料／無料（但し郵送料510円は必要）
- 申 込 先／当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード（限定販売）
好評発売中 ¥800（50度用）

オールカラー
500円

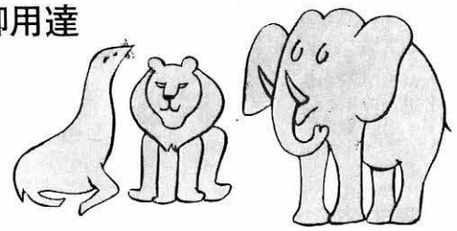
園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会　〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

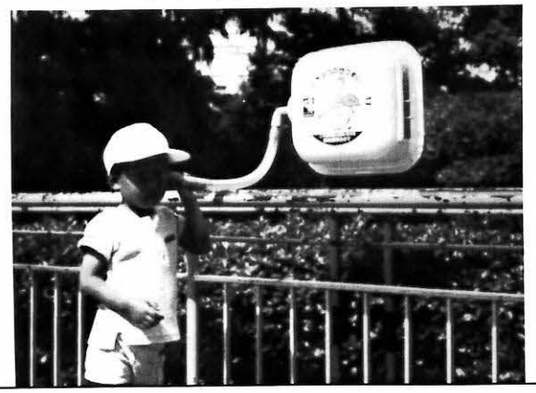


・医学実験用動物
・宣伝用、テレビ用、貸動物
・原色世界雉類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

有限会社 吉 川 商 会

本　社　神戸市中央区中山手通３丁目11番４号　電話(078)221-8195㈹
飼育場　兵庫県小野市来住町１５１３番地

たのしい〝動物のお話〟は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回　30円

動物園内での
お食事、
ご休憩は

動物園内……
中央売店
TEL 06-771-0973

お食事・飲もの・おみやげ　動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110

LOTTE
みんな大好き

〈チョコレート〉　〈ストロベリー〉

コアラのマーチ

雪印

雪印
つぶより
フルーツ
ヨーグルト

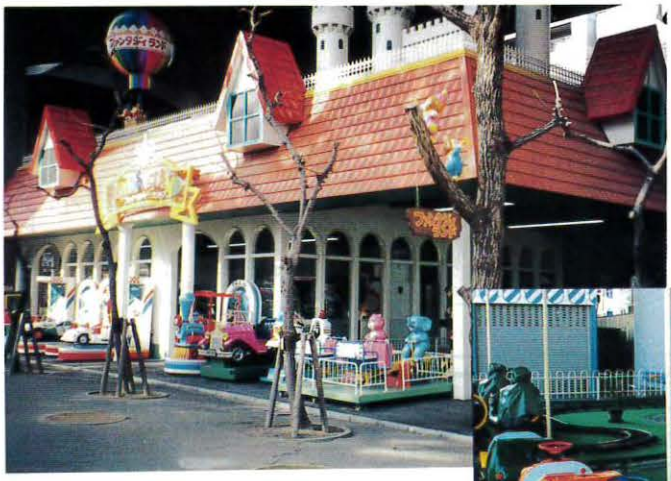
●ライチミックス　●ストロベリー　●アップル　●ピーチ　●フルーツミックス

おいしさは、産地のよさです。

台湾のライチ、フィリピンのナタ・デ・ココとパイナップル――●ライチミックス
国産の女峰、オレゴンのトーテム、中南米のチャンドラー、季節の旬を追って――●ストロベリー
日本の富士、中国・韓国の国光。それぞれおいしい季節の――●アップル
桃といえば中国です。そして韓国。旬に一括収穫した白桃で――●ピーチ
アプリコット、メロン、アップル、パイナップル、ミカン。果物狂の――●フルーツミックス

お待たせ
新発売

希望小売価格・税抜 各100円



一日
愉快に
たのしめる

◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種〝のりもの〟があります。

久竹娯楽株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ　1997年3月10日発行（毎月10日発行）第33巻　第3号　（通巻379号）

編　集／大阪市天王寺動植物公園事務所
発行人／大阪市天王寺動物園協会　伊東重朗
印刷所／株式会社　松村善進堂　定価150円(送料共)　1年継続(12部)　1,650円(送料共)

〒543　大阪市天王寺区茶臼山町6―74
電話　大阪　(06)771―0201
振替口座　00930－2－37823

編集委員　樽本　勲／馬詰好文／増野悦敏／中川哲男／吉本昌俊／長谷川敏昭／落合正彦／宮下　実／横原安昭／森本委利／高橋雅之／市川久雄／中上正幸／堀　眞佐子／萩原祐二／竹田正人／高見一利／大野尊信／野口秀高／早川　篤／村上勇一／西村慶太／山元貞幸